



小山大友
市民連合
(60分)



夜間中学の開設は

問 夜間中学とはさまざまな理由により義務教育を終えることができなかった人、不登校などのためにほとんど学校に通えなかった人などが学ぶことができる公立中学校である。文部科学省は、全ての都道府県と政令指定都市に少なくとも最低1つ設

置することを求めている。開設の必要性についての考えは。

答 現在、県内には広島市に公立の2校が設置されている。不登校などさまざまな事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人へ義務教育を受ける機会を提供する役割もある。今年度、広島県がまず、ニーズ調査を行うことになっており、その結果を注視したいと考えている。



阿部直文
市民連合
(60分)



※ペアレントメンター派遣事業は

問 ①ペアレントメンターとお話し会や、メンターの人数および年齢構成に係る課題は。②積極的に発掘、養成を行うべきと考えるが。

答 ①参加者からは、こどもに気を取られて話に集中できなかった、休暇の調整が難しいとの意見

があり、今後は託児スペースの確保や、日程の早期の周知に努める。本市のメンターは、30歳代から70歳代と幅が広く、経験に基づいた相談対応が可能であるが、子育て世代のメンターが少なく、同世代の目線での対応が難しい状況である。

②広島県発達障害者支援センターとの意見交換や研修の継続的な実施に努め、メンターが安心して活動できる体制づくりに取り組んでいく。



清水寛敏
市民連合
(60分)



身寄りのない方の亡き後の対応は

問 生前の備えは。

答 終活の必要性について周知、啓発に取り組むとともに、相談の機会が増やせるよう努めていく。

こどもの居場所づくりは

問 交流館などを涼み場として開放することについては。



八杉光乗
新政クラブ
(90分)



東部地域の現状と課題は

問 ①高台に造成された団地では人口減少と高齢化が急速に進み、市民生活にも影響が出ているが、本市の認識は。

②地域主体の話し合いの場としてまちづくりミーティングが進められているが、効果的に広げるための取り組みは。

答 交流スペースの使い方や講座の開催方法など、さらに利用しやすくなるよう工夫していく。

誰もが安心して移動ができるまちづくりは

問 安心して移動、利用ができないといった声もあるが。

答 歩道の段差や急な勾配の解消などバリアフリー化に取り組んでいる。駅周辺のトイレについて設備の設置状況を加えるなど統一的な内容で、市ホームページに掲載したいと考えている。

答 ①高台にある団地を中心に急激に高齢化が進み、移動が困難な方も増えている。地域活動の担い手不足や高齢者が通院や買い物に困っているとの声を把握している。課題の解決に向け、日常生活の困り事を支援する活動が東部地区15学区中9学区で始まっている。②今後、地域づくり塾を通じて地域リーダーを養成するとともに幅広い住民の参加に向け、各種団体への声かけを行っていく。また、まちづくりサポートセンターが多様な主体につなげながら、解決に向けた支援をしていく。